

令和2年度第2回守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議

発言者	会議内容（要旨）
	<p>議事（1）守山市市民参画方法運用マニュアルの改訂について</p>
A 委員	<p>このパブリックコメント（以下「パブコメ」という。）のボードとチラシはすごく分かりやすく、とっつきやすくなって良いと思っている。</p> <p>市のホームページでどんどん新しい情報が更新されて、今はコロナウイルスの状況がトップページに必ず固定されている。パブコメを実施する際、実施中のものをトップページに掲載できれば目につきやすいと思う。せっかくこのパブコメの制度をなんとかかしたいと取り組んでもらっているので、そのようなことをしてもらえると市民からも気づきやすい。</p>
B 委員	<p>市ホームページのトップページに何を掲載するかについて、その時々で今はこれを掲載してほしいとかいう要望があると思うが、デザイン面も含め、どのニュースを上位のところに置いて固定するのかという方針は定まっているのか。</p> <p>例えば、今は大抵の自治体で、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）についての情報発信が重点になっている。それはおそらく、これは大事だからとなって、トップページに出ているのだと思うが、どのように情報発信するかについて、市としてどのような方針を持っているのかということが問われるのかなと思う。パブコメというのは、緊急事態などがある際も、市民が市役所に意見を言うことなどは市民の権利としてとても大事なことであるから、常に緊急情報の次のところぐらいにはあるべきだということかと思う。そのような市としての方針を持っておいた方がよいと思う。</p>
事務局	<p>おそらくホームページの新着情報では、新しくアップしたものが全部掲載されて、それとは別立てでコロナのことや、本市であれば自転車やトルコホストタウン事業など、力を入れて進めている事業はトップページから閲覧できるような作りになっていると思う。パブコメについても、進んでいくと該当ページにたどり着くようにはなっているが、トップページからすぐに閲覧できるような作りにはなっていない。トップページから入れるような仕組みにできるかというのは大事な部分かなと情報発信の面で考えている。ホームページの担当課とも相談しながら確認する中で、そのような仕掛けもしていきたい。</p>
B 委員	<p>一昨年に市民懇談会を守山ニュースに取り上げた。市役所が今なにをしているかという情報発信も大事だが、市民懇談会のようなものを取り上げることで、市民にとって自分たちが市役所とどう関わっていくのかということについての大事なお知らせの機能を持っていると思う。このようなところに行って話し合いをしたりす</p>

	<p>ることができるし、実施しているまちなんですよということを知らせるもので、単なるニュースとは違うため、1本だけでもあることは大事だなと思った。</p> <p>だから、それを見ることによって、市役所と自分の関係、自分の国民としての権利や社会に参画していくスタンスなどを知ってもらうための素材は、ニュースとは別立てに大事だと思う。A委員の発言だと、パブリックコメントが常にそこにあるということはいつでも大事で、今オリンピック・パラリンピックのホストタウンも大事ではあるが、それよりも常に大事だと。なぜならば市民の権利であるからというようなことを、それを見ることによって自然と刷り込まれていくような作りにもしてもらえたらいいかなと思った。</p>
A 委員	<p>パブコメのボードで掲示している A4 のチラシは、持って帰れるようになっているのか。</p>
事務局	<p>持ち帰れるようにはなっていない。</p>
A 委員	<p>チラシを見て気になったものはボードから抜いて持って帰れると、家でもゆっくり見ることができるかなと思う。せっかく QR コードもついているので。</p>
B 委員	<p>それはいいと思う。例えば利害関係の仲間に、このようなパブコメが募集されているからちゃんと出してねとか言いやすい。この案件は私たちのことだから出そうねと言うために持って行って配っていいよと。</p> <p>あと、パブコメ募集について、市民懇談会の過去の参加者宛てに送付したとのことだが、そのほか市として直接市民に情報を提供するような手段は何か持っているのか。</p>
事務局	<p>県はそのような情報をメールで送る仕組みがあるが、守山市は防災関係で不審者や詐欺、天候等についてのメールはあるものの、なかなかそれぞれの施策をお伝えするものはない。</p> <p>Facebook はあるが、まだ今回取り組みの中に入れていなかった。今後も検討していきたい。</p>
B 委員	<p>ある自治体では、転入届を提出しにきた若い世代などに、LINE のアカウントで子育て情報を発信していることなどを伝えている。情報を役所が出すだけで、市民がメッセージを送信しても役所からは返ってこないものだが、一方向でも情報提供をするものを作られている。おそらくお金もそれほどかからないと思うし、SNS も時代によってどんどん変わって行って、いろんな世代とどうしていくのかというのを全部していくのはなかなか大変だと思うが、そのようなものもあってもいいのかなと思った。市民懇談会の参加者だけではなく、何かもっと他の手段でも、ボード</p>

	<p>でもつながるし、SNS や電子的なデバイスを使っても情報発信ができるようなことを入れ込んだ方が良いのかもしれない。</p> <p>議事（２）令和２年度の市民参画事業にかかる取り組み進捗状況について</p>
A 委員	<p>今年はコロナの影響で市民懇談会が昨年度から一度もできていないと思うが、パブコメのことで取り組んでくれたように、市民懇談会を今のこの状況でどうにか開催できるような方法はなにか検討されているか。</p>
事務局	<p>他市では Zoom を使ったワークショップなどは先進的に取り組みをされており、当然本市でもそのような取り組みを進めないといけないという意識は常に持っていたが、なかなかそのような取り組みが今年度中に進められなかったことを反省している。また、学生ファシリテーターの方は授業もオンラインで受講しておられるので、そのようなご協力をお願いしたい。例えば職員ファシリテーター、また市民ファシリテーターの方にも場を踏んでいただき、また、学生ファシリテーターがいらっしゃらない中でも推進できるような環境を作っていかなければならないというのは来年度の課題として持っており、引き続き取り組みを考えたい。</p>
B 委員	<p>比較的若い人たちはオンラインを使う機会自体が今年増えているのか、どうなのか。オンラインでミーティングをするとかと言われたら、ちょっと困惑するというのを案外感じた方もいらっしゃるかもしれない。</p>
A 委員	<p>結局、オンラインだと話しにくいよねと言って、人数を絞るなどして集まることが多い。</p>
B 委員	<p>今年のパブコメのテーマは市民の関心が高いものが多く、新庁舎や路上喫煙も意見の提出数が結構あった。また、ごみの減量、ごみ処理の基本計画など、住民生活にかなり密接に関わっていることが多く、たくさんの関心を引き立てて、こういった工夫がしっかりと市民の関心を掘り起こすことができたので、そういった意味ではちょうどいいときだった。このような成果はどんどん進めていかないといけないが、一方でやはり市民懇談会もまた別の意味合いがあり、市民参画に関心を持つ市民を掘り起こしていくという意義があるので、今後も続けていったほうがいいとは言え、心配なところもあるという A 委員のご発言だった。</p>
C 委員	<p>市民懇談会は今までも参加していただいていたが、やはりいろんな市民の考え方がある。私たちは中間支援ということを目指してきたが、先日、市民交流センターが指定管理から外れるというお知らせをいただいた。どのように交流センターを維持・運営するか、市の思いが聞きたい。今も地元で高齢者の居場所を作っているが、</p>

<p>事務局</p>	<p>中間支援が一番大切なことだと思っている。市民交流センターの位置づけや運営方法について、市の考え方を聞きしたい。</p> <p>市民交流センターについて、14年間リエゾンオフィスさんに指定管理をいただき、今まで築いてきていただいたことに本当に感謝をしている。</p> <p>そのような中、市として今後どうしていくのかというのは本当に重い課題と感じており、今一番大変なのは担い手不足であるということを自治会や市民活動団体においても聞きしている。しっかりとサポートできるような組織を市で構築していかなければいけないのかなというのが一番目指すべきところかと思っている。</p> <p>それをどのように目指していくかについては、担い手が埋められるよう、自治会や団体が困っておられるようなところを捕捉して、困っているところと人をつないでいく役割を果たせる体制を整えていかなければならないと思っている。そのためには勿論スキルアップも必要で、多くの方に来ていただく施設にしていかなければならないと感じている。</p> <p>また、協働推進係が直営で入る予定で進めている。今まで取り組んできている市民懇談会やファシリテーターの研修など、市の事業も市民交流センターで開催することで、できるだけ多くの方に足を運んでいただけるような仕組みづくりから始めて、しっかりと今までリエゾンオフィスさんがしてきてくださったことも引き継ぎながら、今できてないところ、特に担い手不足というつながりの施策を作っていきたいと思っている。市のほうで、今ちゃんとした意見・考えがあるわけではなく、非常に苦戦している部分ではあるため、また皆さんのお考えやお力を貸していただく中で、一緒になって構築していきたい。</p>
<p>C 委員</p>	<p>最初に立ち上げる際、リエゾンオフィスさんが指定管理を受けたが、そのプレゼンのときに私たちのNPOで立ち上げていたふれあいネットとリエゾンオフィスさんとでプレゼンして駄目だった。それでリエゾンオフィスさんが今までやってきたので、とても思い入れがある。市民活動屋台村も、県の屋台村から守山市に持ってきた第1回の屋台村を始めて、そういうところでまちづくりをしてきた、中間支援してきた思いがあるため聞かせていただいた。今後の運営方法をしっかりと見ていきたい。やはり市民の皆さんがいつも来て、安心して楽しく過ごせる場所にしていただきたい。</p>
<p>D 委員</p>	<p>もともと市民交流センターが設立されたのは、市内で活動している団体で、それぞれ学区でいろいろなサロンや障害者関係のことをされているような方たちは何も情報がなくて、あそこはどういうふうにされているのだろうというような声を公民館にいるときにたくさん聞いて、そのような方々の交流会などを持ってきた。そこにちょうど淡海ネットワークセンターができて、そのセンターは県全体のもので、それではぜひ守山にもそういう施設がほしいというような要望・意見をいただ</p>

	<p>いていますと当時の市長さんに伝えていた。そのときまたま雇用促進事業団から市に移転されて、そこをそのように使おうかという市長の一言があり、市民交流センターが生まれてきた。私たちが活動してきた中での思いは一つの結束という形になってきたため、市民交流センターがどうあるべきか、どういうふうにあってほしいとかいう思いは今もあって、ある程度継続されてきているのかなとも思う。</p> <p>今、市の管理運営方法変更について、とても前向きな良い意見をいただいているが、市民交流センターは年間でのべ7万人近い人たちが利用していて、これほど多くの方が利用されているセンターというのは県内にないと思う。それはなぜかといえば、2階はいわゆる貸館でカルチャースクールのようなものやサークル活動で利用されて、1階はいわゆる市民活動やボランティア活動の団体が自由に集える場所というふうな住み分けをしている。トレーニングルームは4月からはなくなるが、年間のべ1万人近い方が利用されてきた。</p>
事務局	<p>市民交流センターの運営については、4月以降、職員一同、一緒に汗をかいて勉強させていただこうと思っている。委員の皆様にもこの施設をより活性化していくためには、こういうことしていったらどうかという提案をしていただいたり、一緒に汗をかいていただいたり、またいろんな事業を市民交流センターで展開していくなど工夫していきたいと思うので、ぜひ今後も活動に向けてのご意見をいただきたい。体制の構築に最低2年間はかかるだろうと予測しているが、しっかり議論を積み重ねて、この推進会議など色々な形でお力を借りて議論を進める中、考えていきたい。</p>
B 委員	<p>やはり8万、10万くらいの自治体で顔の見える関係でやっていくというのは大事。そのあたりは大事にしながら、事務局から新しい体制がうまく確立できるのに2年くらいかかるだろうかという見込みも言われたが、団体を育てるといえるのか、全部直営にするのではなく、委員の力で十分に団体が育ち、支える人材が育てられるようにこの推進会議でも考えていきたい。市民懇談会などの場で人を発掘していくことも大事だと思うので、新年度にそういうことがうまくできたらと思う。</p>
E 委員	<p>皆さん重々わかっておられると思うが、中間支援はやはり人。中間支援だけをしていて始まりとして成り立つかということ、やはりなかなか成り立たないので、そこをどう考えていくかということがまず一つ。また、例えば行政も市民も、中間支援って大切だよねと皆さん言うものの、ではどのように人材が育つのかという道筋は誰も分かっていないようなところがある。手探りではあるが、本当に中間支援が必要だと皆さんがいうのであれば、知恵を出し合って、このようにすると良いのではないかというのを守山市ならではの方法ですればいいかなと思う。やはり中間支援は県内の市町でも勿論そうだし、もっと大きい京都や大阪だと事情が全然違うので、ここだったらどうか、どうしたらそういう人たちが活躍できるようになるかな</p>

	<p>とか、やっぱり少しずつしていく。いい意味で、若い人たちがそのようなことに関心を持って、自分たちが地域の中でいろいろ動いていくと、どんどん変わっていくんだという実感を持ちながら活動できるような土壌がどのように作れるかというところにもかかっていると思う。多い人数ではなくてもいいので、若い人たちを対象にした市民懇談会をオンラインでもいいので開催して、中間支援や、私たちが伸び伸びと活動できるようにするにはどのような機能があったらいいかなどのお話し合いを何回か重ねてみても良い。意見を聞いてみたり、方向性をちょっと見定めたりすると、若い人が中間支援を身近に考えられる。なんかそこら辺でやってるらしいよというような認識ではなくて、自分たちのことで、自分たちの中でも担えるのではないかと若い人が思ってもらえるようなのがいいかもしれないと思った。</p>
B 委員	<p>団体が高齢化して、次がないというのを時々聞くような気がするが、そのようなケースは多いのか。</p>
E 委員	<p>多い。</p>
B 委員	<p>自治体の問題ではなく、日本が今そのような局面なのかと思う。今までしていた団体の世代はしていたことも、次の世代も同じぐらいの年になったらやるかなと思っていたのに、実は参加していたが自分たちでは作らなかったとかいうことがあるのかなということ、話を聞いて感じている。市民団体危機の時代に入りつつあるのかなと少し心配している。</p>
E 委員	<p>それは本当にあるけれど、じゃあ若い人がしていることに対して上の世代がどのように思っているかということ、やはり上から目線を見て、まだまだあかんよという目で見ているように感じる。今の若い人たちは、今までとは少し違うやり方をしているので、していることが見えにくい。純粋にボランティアとか市民活動じゃなく、少し生業にしながら、ビジネス的なことも取り入れながら活動していて、上の世代から見るとそれってどうなのかしらとか言っていると駄目だなというようなところはあある。基盤が全然違う。</p>
B 委員	<p>あそこはコーヒーを売っている会社だろうというような見方をしてしまうが、コーヒーを売りながら活動している内容は、今であればおそらく中間支援団体などになるようなことかもしれない、しかし組織形態は株式会社だったりする。実際に行っていることはフェアトレードなのに、外から見ると市民団体らしくないよねという話にはなっているのかもしれない。そのように変わっていているのかなと思う。志を持った活動をしていても、大きく雰囲気が変わっているのかなと思ったので、我々世代から見ると、中間支援団体やNPOが担ったような仕事・役割を担うにはもう一皮むけてほしいというように感じるかもしれないが、そのようなことも</p>

<p>D 委員</p>	<p>含めて、なにか新しい形を考えなければならないのかなと感じる。</p> <p>市民活動団体として近江八幡市の円山町でずっとヨシ関係の活動を続けていて、地元の人たちに初めは拒否されていたが、年数はやはりかかったが地元の人たちも関わってくれるようになった。近江八幡市広報3月号の表紙に私の活動が載っているが、その中に地元の若い人、30代の人が入ってきて、新しいグループを作って自分たちで活動していこうという動きが新しくできた。だから先ほど事務局が言っていたように、汗を一緒に流しながら、よかったらという声かけもしながら活動をしてきたら、地元の人が地元のよさを再発見していただいた。こんなにヨシがすばらしいとは思っていなかったとも言われて、自分たちでもっと守っていくような活動をしていきたいということで、30代で働いている人たちが、声をかけあって動きを出してくれた。だから確かに全体的には皆さん忙しくて、手伝いはできるけども中心になってやろうというのはなかなか難しい。でも、自分たちでできることはお互いにやっっていこうという形でスタートしていただけた。じゃあ今までの私たちの活動は後方支援に回れるなどということで、長年続けてきた活動の一つの成果が出て喜びにはなっている。だからすぐにはできないけれど、美崎の自治会でも根気よく長年ずっとしていくことで一つの形ができてきているので、そのような活動を参考にしながら活動している。</p>
<p>A 委員</p>	<p>私は30歳くらいのときから市民活動に関わっているが、自分のしたいことがあるから関わってきた。中間支援をしてくれる市民交流センターの存在がとても大事だということは分かっているが、自分のしたいことがあって市民活動をしているので、そこから中間支援のほうに行きたいという発想はあまりない。せっかく市民活動には関わっているが、中間支援に回って自分のしたいことができるかなと思う。私くらいの世代の人は、自分のしたいことをまずしたいから。</p>
<p>E 委員</p>	<p>それは正しくて、そういう人は中間支援に入ったら駄目。以前、ある方がこども食堂をしたいと言って声をかけたら、グループが集まった。でもその人が中心になって何回か終わったときに、その人が「でもやっぱり私こども食堂がしたかったわけじゃないわ」と急に言い出した。聞いてみると、いろいろな人に声をかけて、みんなが参加してくれるのがよかったとおっしゃった。それを聞いて私は、この人は中間支援の人だと思った。だからやはりそれは人それぞれの活動の仕方なので、私はこういうことがしたいという人は、もうそれに突き進んだらいい。</p>
<p>B 委員</p>	<p>だから自分のしたいことに突き進む人は、そのところですよというのが大事。</p>
<p>E 委員</p>	<p>してみたら違ったという人がいたわけで、そういうこともあるので、全然そんなことはいい。</p>

A 委員	<p>中間支援する人材がないという話だが、市民懇談会に来てくれて、いろんなことに興味を持ってしたいと思ってくれる人の話を聞くと、市民活動に自分がしたことがあったらそこに関わりたいという人のほうが多いように思う。中間支援する人材が育たないのはそういう面があるからではないか。</p>
B 委員	<p>おそらくまだその段階では入り口として何かしたいというところで、こども食堂のその人とも一緒だと思う。私が思うに、こども食堂というのが話題になっているから活動してみたいというのは、もっと漠然と子供たちのために何かしたいとか、地域のために何かしたいと思っていて、いろんな人を巻き込んだら面白いなどか思っている人だと思う。そのような人かもしれないけれど、最初は具体的にこれというところが入り口になる。最初から中間支援をしたいとかというのは、野球をしたことはないけれど、俺4番打ちたいとかいうのと同じで、ちょっとやめよう、とりあえず球拾いからやろうとかいうふうになると思う。でも裾野を広げるということは確実に中間支援の人材を広げるはずで、これだけ広がったら、中間支援できるような人が引かからなかったということはおそらくないと思う。</p> <p>どうしたら広げられるのかとか、市民協働のいろいろな活動をするときに、事業をするというだけでなく、その事業をすることによって後継者が育ったか、仲間が増えたかという視点を持ったほうがよいのではないかと以前他市で議論をしていた。今までの事業をやるというだけではなく、その事業を通じて社会を変えていくとか、人の心を変えていくような一工夫が必要なのかなと思った。とりあえずは市民懇談会というのは関心のある人を引き付けて市民活動に興味を持ってもらうということだが、今度は入った中でいろいろと活動しながら、私のしたいことは少し違うなどと思うようなきっかけを作れたら良いだろうが、なかなか最初からは狙えない。</p>
E 委員	<p>それは狙えないけれど、別にいい。こども食堂はみんながやってくれたらいいので、私は何か違ったわと言われたら、それはそれでいい。</p>
F 委員	<p>後半のお話の中で、次の人へいかにバトンタッチするかということで、今私たちはいろいろ悩んでいて、本当に難しいなと思う。活動の目的が少し違うとか、熱くなっていた私たちの世代から、年齢の若い人たちは少し違うのかなというのを今感じている。次につながるにはどうしたらいいかなというのは、今大きな課題。</p>
G 委員	<p>パブコメについて、非常に真摯に丁寧に対応されていて感心したのは前提として、もう一つ、資料に昨年のパブコメの件数が出ている。これを多いと見るのか、少ないと見るのかどちらかと言うとまあまあ少ないのだろうが、なぜ少ないのかというと、一つは市民の市政に対する信頼が厚い。もう言わなくてもちゃんとしてく</p>

	<p>れるというのがあるのかなと。もう一つは、案を見せられても分からなくて、的確な意見が出てこない。この中で意見の多い新庁舎の話やたばこの話は言いやすい。だが、条例に近づくようななんとか計画とか言われると、なかなか意見が言えない。言ったとしても、プロの職人さんたちがきっちりと作った計画に、なるほどと言ってもらえるような意見は出てこなくて、大概は意見を言ってもらったけれども、このように反映していますという答えしか返ってこないの、もう次に言いたくなくなる。基本的には市政に対する信頼が厚いのと、パブコメ制度の限界のようなものがあるのかなという気がする。市民参画方法はたくさん方法があるので、これはぜひともこのような意見をたくさんもらいたいと、戦略的に市民の意見を引き出すようなものがあったらいいのかなと思う。</p> <p>また、私は淡海ネットワークセンターの設立を担当した。そのときに、簡単に言うと中間支援組織というのは、三つの役割を果たせばいいと言われていた。一つ目は情報の交流の拠点を持つ。二つ目は場所を提供する。三つ目はネットワークづくりをする。その三つがネットワークセンターの仕事で、だけど、これは皆さんの活動を支援するためにすることであって、自分の楽しみではない。もちろん楽しいという人がいてもいいけれども、自分がこれをしたいと言ってするものではなくて、どう皆さんの活動を支援するのか、そのときに私は何をやるのかというところで価値観を見いださないとなかなかできない。</p>
H 委員	<p>パブコメをコロナ禍の中、非常に工夫されて、とても進歩していて評価できることと思う。前回も話が出ていたと思うが、パブコメの実施時期が最終段階ということで、審議会と専門家で議論されて形が出来上がった中での意見反映なので、市民の意見が反映されにくいのではないかという課題はパブコメの件数が増えても残ってくるのではないかと。また、コロナ禍で市民懇談会など、我々も一生懸命これがいいよと推し進めてきたものが開催できない状況を鑑みて、何か違う方法が必要で、例えば審議会やファシリテーター養成講座であれば、講座を受講するだけなら Zoom で申込みすれば会話に入らなくてもコメントとして残すことはできる。主催者側で意見として反映することはできるので、そのようなところを工夫して庁舎内で試験的に市民懇談会のようなテーマを決めて、相互ではなく一方的に情報を発信していく中で、意見の求め方を新たな手法として実施する方法を今風にやってみるのも一つの方法ではないかと思う。パブコメはパブコメの良さもあるので、次の段階として模索をする。新しい市民参画の方法なり、意見聴取の方法なりを模索していけばどうかと思う。</p>
I 委員	<p>市民懇談会はコロナ禍でどうしても人と人が直接会うという場が難しい状況にあるが、そのような場が減れば減るほど、なおさら人と人の距離が空いていく。直接集まるのは難しい状況だが、オンラインなどを使って顔が見えるというだけでも安心する。私も友人と会えない状況が続いていたが、LINE のテレビ通話で顔が見</p>

	<p>えるだけでも安心というか、距離が縮まるところもあった。オンラインはなかなか使い慣れないと難しいところもあると思うが、少しでも人と人の顔が見られる中での話し合いを少しでもしていったら、コロナ禍の不安の中でこそ不安を共有し合うというか、どのようにコロナを乗り切っていくかという話題でも共有できたらいいのかなという点で、オンラインがもっと進歩して普及していくといいのかなと思う。</p>
B 委員	<p>今まで市民懇談会とかは行政手続として実施していたのだけれど、市民が集って何か自由に話せるような場とかをオンラインとかで作ってもいいのではないかな。別に市の責任でやらなくてもいいと思うが、やはり若い世代からは少し違う事案が出てきていると思うので、構えてするのではなく、もう少し自由に話せるような場所などを作ってみるのも面白いかもしれないと、テクノロジーの進んだ時代であるからこそ思う。</p>
J 委員	<p>パブコメでたくさんの意見をいただいている。それをどの程度、いろんな計画の中に反映されているのかというのが全然これでは分からない部分がある。やはり行政だけが考えているのではなく、市民の皆さんの意見も入っているということを知るように、市民全体の中から意見を聞いてこの計画に重ねていくというような部分がどこかに出てきたら良いのではないかな。良い計画書ができて、これはもう行政の職員がやっているものだという皆さんの思いがあると思う。意見を出してくれる人は、意見が採用されてたら、ものすごく市民の意見も反映されているということがわかって良いことだと思う。</p>
事務局	<p>それについては意見を取りまとめて、その考え方についての回答と反映状況は分かるようにホームページ等で公開はしている。</p>
E 委員	<p>パブコメのボードにこんな意見で、こういう意見で、こういうふうに取り入れられたんだと何か見られるのがあると良いかもしれない。</p>
B 委員	<p>行政としては、たくさんの意見をもらったということについてどのように受け止めているのかということが、肯定的評価や厳しい批判を受けて、留意しなきゃいけないと考えたことなどが抽出されると良いのだろうなと思った。結局パブコメ制度の限界ではないと言われるような状況にどうしてもなってしまうという今の立ち位置があるが、もうひと工夫、パブコメ実施中だけではなく、結果が出ましたとかいうのが並ぶと良いかもしれない。また結果のちらしを持って帰れるようにして、こんな回答だったから見てねとか言ってくれたら良い。そのようなものも QRコードで全部見られるようにするという、割り切りもあっていいし、何かそのような今後の工夫があってもいい。</p>

H 委員	審議会等の聴講制度は現地に行けば参加できると思うが、オンライン上やネットワークでの参加などは検討しているか。
事務局	まだそこまではしていない。
H 委員	発言はオブザーバーでできないと思うが、関心のある人々に意見を行政側として集めることは可能だと思うので、そのような仕組みも考えたかどうか。また、ネット環境やフリーWi-Fiもあるし、パソコンや機器を持ってない人についても市がパソコンの貸出しをするなど、環境を提供されることなどでクリアできると思う。誰もが参加できるような条件を整えて考えていきながら少しずつ実施していければ、またいろんな意見なり、見方が変わってくるのではないか。
E 委員	<p>計画策定の委員会や審議会など、一般の市民が傍聴できる会議について、ちょっと一回行ってみようかなというような気持ちになってもらえるようなお知らせの仕方を工夫すると面白いと思う。</p> <p>そのような会議などを見ていると、パブコメで少し言ったくらいではなかなか変わらないなとか分かるかもしれない。こういうふうに物事は決まっていくのか、というような気付きがあると面白いかなと思う。</p>
B 委員	<p>面白い話じゃないし、聞きたい人が聞くというのでもいいから、そのような場を広げていければ。今週どこか行けるかなという感じで見に行けるくらいの余裕とか、ちゃんとしたリズムというのが必要。今年のパブコメでリズムを作る工夫をされていたが、そのようなことも大事かもしれない。</p> <p style="text-align: right;">(了)</p>